優秀畜産技術者特別賞

アグー豚のブランド強化に向けた研究

沖縄県畜産研究センター
島袋　宏俊

沖縄県では、「希望と活力にあふれる豊かな島を目指して」を基本政策の一つに掲げ、亜熱帯性気候を生かした農林水産業の振興としておきなわブランドの確立と生産供給体制の整備を展開している。沖縄県アグーブランド豚推進協議会（沖縄県農林水産部畜産課内、以下、協議会）は、沖縄固有の在来豚アグー（以下、アグー）を活かして「アグーブランド豚」の生産供給体制を整備し、養豚業の振興を目的としている。

沖縄県畜産研究センターの役割の一つは、畜産現場の課題を解決するために、研究課題を設定し、研究成果を早急に現場に反映させることである。今回、アグーに関する研究を行い、研究成果を行政と連携して普及に移した事例を紹介する。

平成16年当初、協議会ではアグー種豚の登録体制を整備することが課題となっていたが、ＤＮＡ情報を解析してアグーと他品種の豚とを識別する技術を開発し、その技術を活用して協議会と連携しアグーの登録体制を整備した。さらに、産地保護とブランド力の強化を図るため、「アグーブランド豚」豚肉の識別技術を確立した。今後は、本県の基本施策を展開するため、さらにアグーブランドを強化するための研究を推進していく。

１．アグー種豚登録体制の整備

「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業（平成 17～21 年度）」を活用して、「アグーの近交退化を緩和するための育種技術の確立」では、マイクロサテライトマーカーを用いてアグーと他品種とを識別する技術を開発した。この技術は県内全域アグー種豚 984 頭の登録に寄与した。さらに、アグー種豚のミトコンドリアＤＮＡd-loop 領域の塩基配列を決定し、母系解析によりアグー種豚は東南アジア系のブタ（東洋系）と欧米系のブタ（西洋系）とに区別された。この技術は「琉球在来豚アグーの証明規程第 4 条アグー証明の資格」の中でアグー種豚を東洋系に統一するために利用されている。

２．「アグーブランド豚」豚肉識別技術の確立

「アグーブランド豚」とは、アグーの雄と西洋豚の雌とを交配したものやアグー同士を交配した豚である。一塩基多型（以下、ＳＮＰ）マーカーを用いて、「アグーブランド豚」豚肉と他品種との豚肉を識別するシステムを開発した（平成 22～24 年度）。ＳＮＰマーカーを用いた識別システムは市場の生肉だけでなく調理・加工豚肉も識別鑑定することが可能になった。この研究成果はトレーサビリティへの応用と偽装抑止に貢献できる。

３．おいしい豚肉作出への挑戦

「世界一おいしい豚肉作出事業（平成 25～29 年度）」では、次世代シーケンサーを駆使してアグーの全ゲノムリシーケンスを行い、アグー特有の優良肉質遺伝子の探索を行う。その遺伝子情報を活かすことにより効率的な育種システムを構築していく。